

国際アート展における街とつながる実践： トロールの森2023を事例として

メタデータ	言語: ja 出版者: 武蔵野大学建築研究所 公開日: 2024-03-15 キーワード (Ja): 地域計画, 街づくり, 自然環境, アート展, インスタレーション, 建築空間 キーワード (En): 作成者: 水谷, 俊博 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/2000170

国際アート展における街とつながる実践 「トロールの森 2023」を事例として

Practice to connect with the city in International Art Exhibition
:A Case of "Trolls in the Park 2023"

水谷 俊博*1

MIZUTANI Toshihiro*1

地域計画	街づくり	自然環境
アート展	インスタレーション	建築空間

1. はじめに

東京都立善福寺公園を主会場として年に1度開催される国際野外アート展、「トロールの森」(主催：トロールの森実行委員会、後援：東京都東部公園緑地事務所・杉並区・杉並区教育委員会、協力：都立善福寺公園・杉並区桃四コミュニティスクール・JR 西荻窪駅・Daily Table KINOKUNIYA 西荻窪駅店・遊工房アートスペース・関東バス株式会社・ゆうゆう善福寺館・中央線あるあるプロジェクト、助成：企業メセナ協議会 助成認定活動・公益財団法人東京都歴史文化財団・アーツカウンシル東京【芸術文化魅力創出助成】・杉並区文化芸術活動助成事業)は、2002年にスタートし、今年で22年目を迎える。

アート祭全体では、杉並区の JR 西荻窪駅周辺から都立善福寺公園にかけてのエリア一体に様々なアートが展開される。都心部の施設内部(美術館等)で開催される通常のアート展と異なり、街中をフィールドとして開催されることが大きな特徴である。都立善福寺公園を舞台とした野外展をはじめ、駅や商店街のまちなかで繰り広げられるアートや身体表現、まちの魅力を発見するプロジェクトなど、「野外×アート×まちなか」の多彩な活動に触れることができる。



写真1：「トロールの森 2023」都立善福寺公園での出展の様子



写真2：子どもたちが黒板スペースで遊ぶ様子

*1 工学部建築デザイン学科教授

2. トロールの森 2023 概要

2023年11月3日(金・祝)~2023年11月23日(木・祝)の3週間開催された「トロールの森 2023」のテーマは「REAL=FAKE」である。「野外×アート」として都立善福寺公園内に20作品の展示と、15作品のパフォーマンス企画、「まちなか×アート」では、24作品の展示や公演などが行われた。展示作品の中には、アプリ系作品と呼ばれるデジタルツールを活用した展示も行われ、幅広く多彩な作品内容となった。



写真3：トロールの森パンフレット画像

「トロールの森 2023」においては、「武蔵野大学 水谷俊博研究室」名義で、『Moby Grape』という作品を出展した。「野外×アート」部門の常設(会期中)展示としてインフォメーションセンターの役割を果たす仮設木造建築作品の展示を行った。

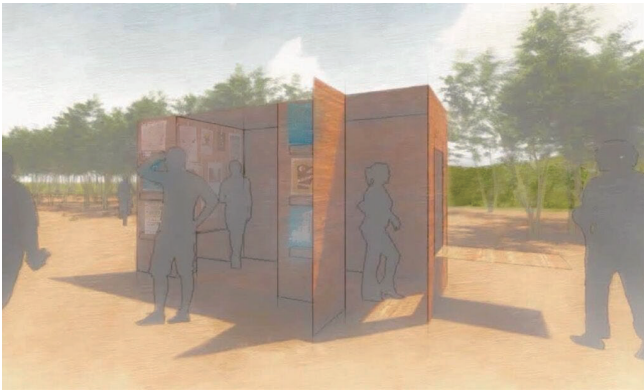


写真4：完成予想図(プロポーザル提案時)

出展に際して、プロポーザル方式により、一次審査である書類選考(2023年5月28日締切)、二次審査となるプレゼンテーション及び面接(2023年6月18日)を経て、入選・出展の運びとなった。キックオフミーティングや一般公聴会など他の出展者や地域との交流を深めながら会期に向けて準備が行われた。「トロールの森」には2013年より出展を継続しており、2023年の本展で11回目の出展となる。

3. 野外展示作品『Moby Grape』概要

野外展示作品『Moby Grape』は、アート祭「トロールの森」全体の情報発信基地として機能するとともに、会期中に開かれるパフォーマンスなどに必要な備品や物販の保管を行えるインフォメーションセンターである。両開きの建具と、片開きの建具を設置し、「トロールの森」の様々な情報を発信できる場所づくりを行った。また、建具部以外には、出展作品や「トロールの森」のイベントに関する情報媒体(フライヤーなどの平面展示物)の掲示が行える壁面を設置。様々な情報発信にフレキシブルに対応できる構成となっている。

高さ2400mm×幅3640mm×奥行き1820mmでつくられたインフォメーションセンターは、90mm角の8本の柱と、それらをつなぐ梁が躯体骨組を形成。床、屋根には、910mm×1820mmの大きさの15mm合板を4枚ずつ2列に設置。会期中、屋外に置かれるため、屋根には防水シートを4層に張り、雨対策にも十分な配慮を行った。



写真5：組み立て作業時の様子



写真6：雨の日の善福寺公園での様子



図 1：立面展開図

インフォメーションセンターの前面に設置される、両開きの大開口と、片開きの建具が、臨機応変に活用される建築空間を実現している。両開きの大開口は、発信基地としてのオープンな使われ方となる。内壁部分には、2400 mm×1820 mmの黒板塗装合板を設置。この黒板スペースで絵を描いてもらうことで、街の人々や子どもたちの交流を生む場所となる。片開きの倉庫スペースには、棚が設置され多くの備品やイスの収納を実現している。



写真 8：扉の閉じている様子
扉は施錠され備品が保管される

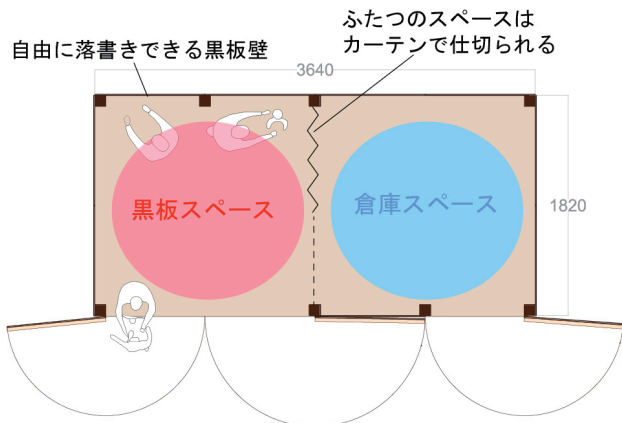


図 2：平面図



写真 9：倉庫スペースが開いている様子



写真 7：黒板スペース内部の様子



写真 10：黒板スペースが開いている様子



写真 11.12 : 情報や小作品がディスプレイされている

インフォメーションセンターの内外の壁部分には、それぞれの展示作品のフライヤーやマップなどが貼られる。街の人々と作品情報、アーティスト同士、アーティストと街の人々をつなぐ場所として機能している。



写真 13 : インフォメーションカウンターの様子

11 回目の出展になり、「武蔵野大学 水谷俊博研究室」としての作品を楽しみにしてくれた地域の人々も多く見られた。今回の作品は、アート展の窓口となり、出展者として「トロールの森 2023」に参加するだけでなく、イベントを総合的に支える役割も担うこととなった。

4. おわりに

「トロールの森」は、アートという媒介を介して、公園から街全体を繋げるという特徴的な国際アート展である。研究の一貫として野外作品の出展・イベント参画により、建築や地域性にとどまらず、街全体を繋げる実践の一活動と位置付けられる。今後継続活動をおこなうことによりアート展とまちづくりの関係性を考察する資料の蓄積を行っていく。

参考文献

- ・トロールの森 HP トロールの森について(閲覧日：2023/11/26) <https://trollsinthepark.com/>

謝辞：本稿をまとめるにあたり工学部建築デザイン学科、南茉侑(4年)作成の作品報告資料を基に執筆を行った。感謝の意を表す。尚、本稿における、写真 2.10.11.12.13.14 は撮影：中島佑二、その他の図、及び写真はすべて、武蔵野大学水谷俊博研究室の作成、撮影による。



写真 14 : コンサートイベント時などに拠点として機能する作品『Moby Grape』